

# stories



広報かわねほんちょう

## 特集 約束の道

大村朱澄・努力でつかんだロンドン行きの切符

奥大井接岨湖大橋のもと、秋風が渡るおだやかな湖面。パドルが水をかく音だけが聞こえてくる。ここに、ロンドンオリンピック・カヌー競技日本代表「大村朱澄選手」の原点がある。

2012

1

No.75

平成23年12月22日発行

特集

# 約束の道

あすみ  
大村朱澄・努力でつかんだロンドン行きの切符

外で遊ぶのが大好きな、小柄な女の子

小学2年生の時に出会ったのは

「カヌー競技」という世界だった

真っ直ぐに前を向いて進んでいけば、

きっと「夢は実現できる」と信じ続けた

14年の時が過ぎ

小さな女の子は、やがてオリンピック選手になった

「大村朱澄・22歳」

スポーツ選手なら、誰もが夢見る大舞台

8月の本戦を見据え、

朱澄さんは今、何を思う—

大村朱澄（おおむらあすみ）

平成元年11月11日生。本町田代出身。川根高校卒業後、早稲田大学に入学し現在3年生。平成15年に結成された本川根カヌーレーシングチームに小学2年生から所属。中学時代は全国中学生大会で2年連続優勝。高校時代は国体に県代表として出場し2連覇。ほか全国高校総体を含む全ての大会で優勝を飾る活躍。先ごろ開催された第16回アジア競技大会カヌー競技では銀・銅メダルを獲得。ロンドンオリンピック・カヌー競技日本代表。

プロローグ「回想」

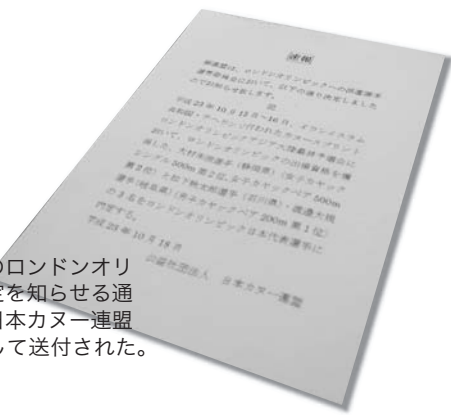
ロンドンオリンピック出場枠を賭けたアジア最後の戦い。ゴールを見つめる朱澄さんの脳裏には「自分が枠を勝ち取るんだ」というイメージしかなかった。静寂の中、号砲一発。しかし、会心のスタートダッシュを決めたのは、隣を行くウズベキスタンの選手だった。「思い描いていたのとは全然違うレース展開になってしまつて…。一気に出られちゃつたんです。『ちよつとまらずいな』つて…。でも、焦りはありませんでした。もちろん余裕はなかつたんですが、漕いでいる感触は悪くなかつたし、『ゴールでは私が前にいる！』つてイメージしありませんでしたから。たとえ遅れをとつても、ラストパートで必ず追いつけるつて思っていたんです—」。

そのイメージ通り、250mを過ぎた辺りから朱澄さんはスピードを上げ、ゴール手前で疲れの見え始めたウズベキスタン選手を一気にかわした。そのまま2着でゴール。1着の中国選手が、先に開催された世界選手権で枠を獲得していたため、朱澄さんは繰り上がりでロンドンへの切符を勝ち取った。「とつても、とつても重要なレースだつたんですが、臆することなく落ち着いてレースを運ぶことができました。今の自分が持つ力を全て出し切れたと思います。イメージの持ち方だったり、レースとの向き合い方だったり、今までの経験が私を助けてくれました。『オリンピックに行けるんだ』という達成感でいっぱいでした—」。

# 約束の道

大村朱澄・努力でつかんだロンドン行き切符

▶大村朱澄選手のロンドンオリンピック代表内定を知らせる通知。10月18日、日本カヌー連盟から「速報」として送付された。



佐藤公敏町長

私の自宅近くの湖で、小学生だった朱澄さんが朝も暗いうちからカヌーを浮かべて練習する姿をよく見かけていました。すごいなあいつも感心しながら見ていたんです。

川根本町の住民みんなが朱澄さんの「ロンドンオリンピック出場」を期待していました。その期待に見事応えてくれた朱澄さん。大きなプレッシャーの中、本当に頑張ってくれました。第一報を聞いたときは、思わず涙が出ました。本当にうれしかった。

私たちも朱澄さんの背中を後押しします。これから頑張ってくださいね。

幼い頃から練習に励む姿をよく見ていました。本当におめでとう。

吉報を手に入れた朱澄さんが、佐藤公敏町長を訪問したのは、大会から10日が過ぎた10月24日のこと。久々の対面に笑顔を見せながらオリンピック出場を報告した。

「最終予選会で2位に入賞し、ロンドンの出場枠を獲得することができました。その後、日本カヌー連盟から五輪代表の内定を受け取りました。皆さんのご支援、ご声援が力になり、たどり着くことができました。」

「オリンピック出場は、幼い頃からずっと目標でした。日本代表の一人として、この道のりを歩めるのは本当に幸せなこと。皆さんの顔を思い浮かべながら、一つ一つ壁を乗り越えていきたいと思えます。本戦までトレーニングに励み、

「五輪」と呼んだりするのが一般的となっている。2012年の開催地はイギリスの首都ロンドン。ロンドンでは1908年、1948年にも開催されており、同じ都市で3回開かれるのはオリンピック史上初。大会会期は7月27日から8月12日。期間中は26競技、300種目が実施される。出場する選手は母

佐藤町長は「小学生の頃からの夢を見事実現させましたね。第一報を聞いたときは涙が出ました。本当におめでとう」と、その快挙をねぎらいながら、2人はしばし思い出話を花を咲かせた。

この後、朱澄さんは1カ月ほど本町に滞在し、接叺湖や川根高校で自主トレーニングに励んだ。産業文化祭やふるさと祭りではオリンピック出場報告会が開かれた。見守る来場者に向かって、決意を胸にあいさつする朱澄さん。



▲産業文化祭で、来場者と笑顔をかかず朱澄さん。オリンピック出場という快挙をみんなで一緒に喜んだ。

会島根大会からは「カヌー競技」が正式種目として採用された。

## カヤックとカナディアン

カヌーには、カヤックとカナディアンの2種類がある。



①カヤック



②カナディアン

カヌーは、エスキモーやカナダのインディアンが、狩猟や輸送に用いた小舟が原型となっている。特に欧州各国では盛んなスポーツ。日本でも普及が進んでいる。現在全国にカヌー協会が設立され、第37回国民体育大

## 世界最高のスポーツの祭典

正式名称「オリンピック競技大会」。4年に1度開かれる世界最高のスポーツの祭典だ。夏季大会と冬季大会があり、国際オリンピック委員会（IOC）が主催。日本では、単にオリンピックと呼んだり、そのシンボルマークの形から

国の代表という誇りを持って記録に挑み、メダルを争う。このロンドンオリンピックの出場枠を争うアジア大陸最終予選会は去る10月14日、イランイスラム共和国のテヘランで開催された。カヌースプリント・フラットウォーターレーシング女子日本代表の大村朱澄さん(田代出身・川根高卒・早稲田大)は、女子500

カヌーの原型は小舟

## カヌーの原型は小舟

カヌーは、エスキモーやカナダのインディアンが、狩猟や輸送に用いた小舟が原型となっている。特に欧州各国では盛んなスポーツ。日本でも普及が進んでいる。現在全国にカヌー協会が設立され、第37回国民体育大



【朱澄さんが帰郷。住民に決意と感謝述べる】  
ロンドンまでの道のりを歩める「幸せ」  
一つ一つ壁を乗り越えていきたい

11月23日に開かれたカヌー体験教室で一枚。参加者に、レーシングカヌーの速さを披露すると大きな歓声が上がった。思わず照れ笑い。

夏にチームに入会し、その練習風景をいつも湖岸で眺めていたという。週末には各地で開かれる大会にも、兄を追ってついでにいった。そんなお兄ちゃん子の朱澄さんが、同じスポーツをやりたいと考え、カヌー競技の世界に飛び込んだのは、ごく自然な成り行きだったのかもしれない。

チームに入会した子どもたちは、まずはカヌーに慣れるため、B&G海洋センターのプールを使った実践トレーニングから始めた。それと平行して、階段を使ったダッシュや体育館での筋力トレーニングにも励み、カヌー技術と基礎体力向上を図った。

朱澄さんは当時を振り返る。「あの頃はとにかく練習が楽しかったですね。トレーニングをトレーニングとも思っていない。一度も苦しいとは思いませんでした。お兄ちゃんたちがパドルをこご姿を見ていましたからカヌーに抵抗もなかったし、わりとすんなり慣れることができた気がします。でも負けず嫌いな性格でしたから、上級生や高校生に混じっての練習であっても、負けると悔しかったですね」と苦笑いした。

チームの練習は、ほぼ毎日学校が終わってから父兄の送迎で練習場に通った。水上での練習は、毎回だいたい1、2時間。辺りが暗くなるまで続けられた。陸に上がったあとは、艇庫の明かりを頼りに筋トレなどに励んだ。

勝つ喜び、負けるくやみやん、夢はいつしか目標へと

小3で初の全国大会にエントリー。4年生の同大会では各県の上級生を抑え3位に入賞するという快挙を果たした。

その後、5、6年生と続けて同大会にエントリーするも、いずれも2位に終わり、勝つ喜びを味わうとともに、負ける悔しさもかみしめた。

表彰台の真ん中に立つ選手が誇らしげに笑う姿をながめるうちに、「いつか自分もあの場所に立ちたい」という願望が芽生えたという。

「あるときオリンピックの種目にカヌー競技があることを知り、いつかその表彰台に立ちたいと思うようになっていきました。でも当時、私は小学生。口にするのは恥ずかしくて、周りの人たちには『オリンピックのカヌーを、この目で見てみたい』と話していた『目標』というより、漠然とした『夢』といった方がしっくりいくかもしれません。いつか行けたらいいなあ……くらいのぼんやりしたものでした」。

そんなおぼろげな夢だった「オリンピック」への思い。「オリンピック」への思い。朱澄さんの中で、現実味を帯びた「目標」へと変わった。きっかけは、高校3年生の時に経験した「シニア日本代表」の強化合宿だった……。

## 小2で飛び込んだカヌー競技の世界 きついはずの練習も楽しかった



高校時代に出場したジュニア大会での朱澄さん。絶対的な強さを誇り、国内に敵無しと言われた。

### オリンピック出場という おぼろげな夢

「国体を誘致しよう。静岡県内でカヌーをやるなら、この町しかない」。平成6年のこと。平成15年開催予定のNEW!!わかふじ国体（第58回国民体育大会・以下わかふじ国体）のカヌー競技会場として名乗りを上げた川根本町（旧本川根町）。まちを挙げての誘致が始まった。レジャーとして「川下り」が盛んだった当時、長島ダム completionを平成14年に控え、大会を開催できる見通しがあつた。競技場の整備やリハーサル大会の開催、人件費、備品購入まで含めて約14億円（うち県補助金が約10億円）を投入する一大プロジェクトだった。

このわかふじ国体の誘致に関連して、地元出場選手を育てようという目的で平成7年に結成されたのが「本川根カヌーレーシングチーム（以下チーム）」だ。国体の開催を見据え、当時の小学生約10人が入会。練習をスタートさせた。朱澄さんがチームに入会したのは小2の冬。2人の兄が

### カヌー競技は主にこの3種目に分類される

●フラットウォーターレーシング

流れのない川、ダム、湖、湾などを利用し、一定の距離と水路（レーン）を決めて着順を競う。こぎ方が異なるカヤックとカナディアンがある。朱澄さんはこの競技。



●スラロームレーシング

カヌーを使った回転競技で、変化に富んだ流れのある川で実施される。こぎ下りとこぎ上がり区間をポールに触れないように通過し、そのスピードを競う。



●ワイルドウォーターレーシング

流れの激しい川を一気にこいで下る競技で、順位は所要タイムのみ決定される。競技は、ノンストップトレーニングに続き、1回のみで競われる。



### follow the track

# 軌跡

日本を代表するトップアスリート「大村朱澄」  
彼女がカヌー競技を始めたきっかけは  
ここまで歩んできた道のりは  
その軌跡をたどる

# 夢へ向け、ただひたすら走り続ける そう、階段を一つ一つかけ上がるように

## 痛感したシニアとの差 逆に目標が定まった

中学の後半から高校時代に  
かけ、ジュニア(18歳未満)で  
は国内に敵無しの強さを誇つ  
た朱澄さん。日本カヌー連盟  
から将来有望な選手であると  
認められ、シニア(18歳以上)  
日本代表の強化合宿に特別枠  
で参加するよう招へいされた。  
その頃北京オリンピックの  
開催を1年後に控え、それに  
向けた選手選考レースのまっ  
ただ中。当然、同じチームの  
仲間であってもライバル同士  
全員がオリンピックに出場で  
きるわけではない。参加する  
シニア代表選手たちの集中の  
度合いや練習のレベルの高さ  
は半端ではなかったという。  
「そこで『戦うこと』の厳し  
さを目の当たりにしました。  
私は特別枠という立場で参加

させてもらいましたが、日本  
トップレベルの選手たちと自  
分のレベルの差にがく然と  
したんです。オリンピックを  
目指すというのはスポーツ選  
手にとって最大の夢。その夢  
を実現させようと必死で励む  
人たちが一緒に練習すること  
ができた。それだけで大きな  
刺激になりました。」

1カ月半にわたる長期合宿  
初めての自炊生活も経験した。  
「家では家事はほとんどやっ  
たことなく。お母さんの手  
伝いくらいかな。でも自分で  
料理しなきゃと思つたら頑張  
りましたよ。栄養バランスも  
考え、必ず3品以上食卓に並  
ぶよう心がけていたんです。」

練習ではトップレベルの選  
手たちに全くとついていけな  
かった。同じようにスタート  
しても、一こぎすることど  
んどん離されていく。差は一  
向に縮まらない。ジュニア時

代、常にトップを走り続けた  
朱澄さんは、ここで大きな挫  
折を味わう。心が折れそうに  
なるほどの屈辱だった。

「くやしかったですね。でも  
トップとの差を痛感したこと  
で、逆に目標がはっきりして  
きた面もあるんです。北京も  
視野には入れていたんですが、  
まずは自分のレベルを高めよ  
う、日本のトップを目指そう、  
オリンピックは次のロンドン  
を見据えよう」と。気持ちを固  
めました。」

大村朱澄、高校3年冬の決  
意だった。  
「ロンドンオリンピックに出  
場したい」。そんな決意を  
固めたあとに出場した、ジュ  
ニア時代の最後の世界選手権  
いろんな意味でプラスになっ  
た大会だったと朱澄さんは振  
り返った。

「その選手権の成績自体は目  
標に届かずくやしさをし

ました。知らず知らずのうち  
に、自分自身にプレッシャー  
をかけていたんです。心も体  
も硬くなっていたのかな。ペ  
アで出場した同じ日本チーム  
の子たちが、本当に伸び伸び  
とレースをしていて……。チャ  
レンジャーとしてのぞむ意識、  
姿勢みたいなものを感じたん  
ですね。『もつと肩の力を抜  
いて、レースを楽しんでおい  
で。カヌーができる喜びを感  
じてきな』と言ってくれた代  
表コーチの言葉の意味を、そ  
の時ようやく実感することが  
できたんです。」

## カヌー漬けの日々 代表にふさわしい選手に

さまざまな理由により、大  
学はカヌー部のない早稲田大  
学を選んだ。高校までとは違  
う環境に身を置いた。指導者  
がない、練習メニューも自

分で考える。決してベストと  
はいえない環境の中で、一人  
練習場に足を運ぶまでは、黙々  
と練習に励む日々が続いた。  
「高校時代から、自分で練習  
メニューを考えることがあり  
ましたから、それは苦になり  
ませんでした。でも一人で練  
習していると、どうしてもそ  
の時点での自分のレベルが分  
からなくなるんですね。その  
頃の自分のタイムは、決して  
飛び抜けたものではなく、監  
督たちの目にとまるような成  
績は残せていませんでした。」

それでも大学1年の冬から  
日本代表の合宿に招へいされ  
ることも増え、カヌー漬けの  
生活を送る中で、ようやく自  
分のポジション、見据える先  
が分かってきたという。

先ごろ中国で開催されたア  
ジア競技大会で堂々の銀・銅  
メダルを獲得した朱澄さん。  
日本女子代表の2番手として  
不動の地位を築きつつある。  
しかし日本の頂点に立つ北本  
忍選手(富山県体育協会)に  
は、いまだに遠く及ばないと  
朱澄さんは語る。

「私は常に、北本さんの背中  
を追いかけてきました。今も  
たくさんのことを吸収させて



10月14日イランで開催されたオリンピック最終選考会で喜びの表彰台



インターハイを制覇した川根高校カヌー部のメンバーたち



小学3年生当時の朱澄さん。小さな華奢な女の子

レース前のウォーミングアップを  
しながら同時に集中力を高めている。  
大人ですら近寄りたくないほど  
の緊張感を見せていた。

もらっています。記録だけで  
はなく、カヌーと向き合う姿  
勢、行動、生き方そのもの……  
全てを教わっている感じなん  
です。」

「選手としても、人としても  
日本代表にふさわしい人物に  
なりたい。北本さんに『これ  
からの日本女子カヌー界を  
引っ張っていきます』って胸  
を張って報告したいんです」  
と力強く前を見る朱澄さん。  
「まずは一日でも早く、北本  
さんと肩を並べることが第一  
ですけどね」と、あどけない  
笑顔も見せた。

# 【考】



dreams come true  
OHMURA ASUMI

## 好きだからいそいそ頑張れる

朱澄さんを突き動かしてきたもの。それは紛れもなく「夢」だ。中学時代は全中、高校時代はインターハイ、大学時代はインカレと、その時代の主要な大会を目標とし、その全てを制覇してきた。父・敏正さんは「階段を一段一段のぼるようにステップアップしてきた」と表現した。

昨年中国で開催されたアジア競技大会で銀・銅メダルに輝いたときでさえ「中国の選手に及ばずくやしかった。まだ自分の力不足を感じる」と目標の金メダルに届かなかつたくやしさをにじませた。目標に向かって一切の妥協を許さない「心の強さ」を感じた。アジアで2位は、はつきり

言いつつすごい。誰にだって自慢できる成績だ。でも彼女は

は納得しない、満足しない。夢の最終到達点に、オリンピックを見据えていたからだ。夢を見れば、誰でもオリンピックに出場できるわけではない。途中で壁にぶち当たり、あきらめる人が大半だろう。朱澄さんも、ここまで決して順調だったわけではない。つらいことも、きついことも、人一倍経験している。でも「やめよう」という気持ちにだけはならなかったと言う。

「やっぱりカヌーが楽しいし、大好きだから。がむしやらに目標に向かって進んできただけです」。誰だって最初は一人の挑戦者。成功するための「近道」なんて存在しないのだ。

## 謙虚な姿勢と感謝の心

朱澄さんと会話すると、言葉の端々に感謝の気持ちが顔をのぞかせる。「皆さんが支えてくれたから、今の自分がある」と当たり前のように話す朱澄さん。小さい頃は「いばりんぼう」だったと苦笑いするが、とてもそんな風には見えない。常に回りに気を配っている女の子だ。

日本の代表選手として、長く海外で戦ってきた朱澄さん。心が弱くなったときは、いつもたくさんの人の顔が浮かんでくるという。応援してくれる人、支えてくれる人、カヌー部時代の仲間、友人、ナショナルチームのスタッフやメンパー、愛する家族…。そんなたくさんの「支える手」を感じ

じていたからこそ、いつも「笑顔」で壁を乗り越えることができたのだ。

超一流の野球選手であるメジャーリーガー。だが「野球がうまい」だけでは、真のメジャーリーガーにはなれないという。ファンや子どもたちに夢を与える存在として、言動や態度など、人格者であるかどうか問われるからだ。人間・大村朱澄を考えたとき、これまで取材した人の言葉を思い出さずにはいられない。どの人に聞いても、彼女の印象を「気さくで謙虚。そして一途。人当たりのいい女の子だよ」と表現していた。いつも感謝の気持ちを忘れない、彼女もまた一流。朱澄ファンが、この町に多いのもうなずける。

# 大村朱澄とはどんな人間なのか その強さの秘密は、人としての魅力は…

中学2、3年生の頃には、同学年の選手にはまず負けることはなかったと思います。全中（全国中学校体育大会）を始めとした各大会で優勝を重ねました。世界大会に初めて参加したのもこの頃ですね。当時、静岡県代表だった春野高校の選手より速かったんですよ。中学生なのに。全国を見渡してみても、強敵と呼べる相手はいなかったように思います。

当時は目を見張るものがありました。大人の私たちですら近寄りたがたい雰囲気がありましたから。1レースごと大きなプレッシャーを感じていたんだと思います。

でも普段の朱澄ちゃんは、昔とちっとも変わらないんですね。ものごしが柔らかで、謙虚で…。気さくな人柄、人当たりもいい。とてもオリンピック代表選手とは思えないんです。

「もっといばってもいいんだよ」とからかったりするぐらいなんです。その人の良さが、朱澄ちゃんの変らない魅力なんだと思いますね。

ることから始まります。B&G海洋センターの温水プールを使って練習するんですが、みんな最初は四苦八苦するんですね。競技用のレーシングカヌーは、いわゆるレジャーカヌーとは形が違います。スピードを出すため流線型をしており、極端に細身なんです。大人の人でも最初の内はバランスがとれず、3秒と浮いていることができません。子どもたちが四苦八苦するのも無理はないんです。

でも朱澄ちゃんは、わりとすぐカヌーに慣れた印象があるんですね。父親の敏正さんは「朱澄は体が軽いからひらひらっと乗れただけだよ」って謙遜していましたが、早いうちからスイスイ操っているのを見て感心したのを覚えています。

週末には町やカヌー協会が主催する合宿に参加したり、各地で開かれる大小の大会に参加したりしました。そうやって実戦経験を積んでいったんです。

本川根中学校に入学した直後こそ、他校の上級生にはかなわなかったようですが、その後どんどん力を付けていきました。

# 昔とちっとも変わらない気さくで人当たりのいい性格 とてもオリンピック選手とは思えないんです

朱澄ちゃんが本川根カヌーレーシングチームに入会したのは小学2年生の時。当時最年少でした。2人のお兄ちゃんが大好きな子でしたから、その影響もあるでしょうね。子どもたちは、みんなカヌー未経験者ですから、まずはカヌーに慣れ



朱澄さんがチーム入会当時  
B&G海洋センター職員だった  
平松敏浩さん(千頭)



# 可能性

possibility

カヌーによるまちづくり

自然を生かした川根本町のカヌー環境は

愛好者にとっては聖地ともいえる

朱澄さんを交えた

体験教室（11月23日）にその可能性を見た

◀Eボートに乗って湖面を走る参加者たち。全員で協力しながら進むので、疲れたら休憩を挟むこともできるし、同乗者同士で会話を楽しむこともできる。生涯学習課藤森敦課長は「まずはカヌーに触れ、その楽しさを実感することが一番大事。子どもたちの体験教室では、このEボートが活躍します。安全性に優れ、大勢でわいわい歓声を上げながら楽しむのうってつけ。一人乗りとはまた違った魅力があります」と話していた。

カヌー愛好者の「聖地」  
本町内ではどっだろっ

川根本町ではわかふじ国体の開催前から、カヌーによるまちづくりを進めようと各事業を展開してきた。

現在小、中学校では、夏場の授業にカヌー体験教室を採り入れている。本川根B&G海洋センターが主催。同所職員が指導者となつて子どもたちにカヌーの操作方法やその魅力などを教えている。対象は町内全学校の全児童・生徒。これによつて本町の子どもたちは、必ずカヌーと触れ合う経験が約束されている。特に、中学校では選択授業にカヌーを採用することで、継続的にカヌーを体験できる環境が整えられている。夏場の各学校のプールに向くと、初めてカヌーに乗り、楽しそうに水しぶきを上げる子どもたちの歓声が聞こえてくる。

シーズン中の週末には、ワゴン車の屋根にカヌーを乗せて本町を訪れ、一日かけて楽しんでいくカヌーイストのグループを多く見かけるようになった。根つからのファンにとつては、本町は言わば「カヌーの聖地」。わざわざ外から訪れるだけの価値がある町ということだ。

しかしながら、町内にはどれくらいカヌーファンがいるだろうか。水に濡れる、道具をそろえる必要がある、一見すると怖そうないメージがある、湖まで行くのが大変……。子どもの頃、カヌーに乗って歓声を上げた人も、その場限りの体験になつてしまつていくことが多いのではないだろうか。大人になつてから「やってみよう」と思つてみても、道具をそろえられなかったり、日常の忙しさに没頭してしまつたりして、いつの間にかカヌーに触れる機会を逃してしまうことが多い。非常にもったいないことのようにも思える。

## 普段とは違う光景に感動

B&G海洋センターでは11月23日、大村朱澄さんのオリ

ンピック出場を記念したカヌー体験教室（しずおかスポーツフェスティバル）を開いた。オリンピック出場によつてカヌーへの関心が高まりつつある今、一人でも多くの人にその楽しさを実感してもらおうと企画したもの。当日は初心者向け体験教室やカヌーツーリングが開かれ、接岸湖カヌー競技場に参加者約20人が集合した。

今回B&G海洋センターでは、一人乗り、二人乗りカヌーのほかに、大人数で乗れる「Eボート」というタイプのカヌーも用意した。これは災害救助にも利用されるほど安全性が高い艇で、子どもでも安心して乗ることができる。それでいて水の上を走る爽快感は、一人乗りの艇と何ら変わらないという。



1

2

3

1レインボーブリッジを行くトロッコ列車に手を振る参加者。運転手が手を振り返してくれて大喜び2雨のあと数日間だけ現れる滝を見た参加者は「得した気分ですね」と話した3帰路につく参加者。まるでカナダ辺りの湖にいるような印象的な光景だった

# 「また、やってみたい」という魅力

「四季折々の美しさに身をゆだねる魅力」



西澤孝仁さん、由香さん（梅高）

5月、8月にもこの場所でカヌーを楽しみました。新緑、鳥の鳴き声、紅葉など、季節ごとの自然の美しさを湖面から眺めるのは格別ですね。めったにできない経験だと思います。周りの人にも勧めたい魅力です。

「風の流に身を任せるのもいいですね」



筑地美帆さん（小長井）

初めてのEボート楽しかったです。濡れることなく水の上から景色を眺められるし、こいでいるので寒さもそれほど感じません。疲れたら風の流に身を任せても気持ちいいですね。こういった体験があれば、また参加したいです。

「素晴らしい環境をみんなに知ってほしい」



神田優一さん（千頭）

初めてカヌーに乗りました。湖面に浮かぶと、普段見ている景色がいっぺんに変わりますね。かなり爽やかな気分です。自由自在に動けるし、自然にも優しい。こんな素晴らしい環境があることを、もっとみんなに知ってほしいです。

多くの人が体感できる町へ

教室&ツーリングが終わった後の参加者からは「普段とは違う景色に目を奪われました。周りの人にも勧めたいですね」という感想が聞かれた。朱澄さんはカヌーの魅力について次のように語る。

「カヌーは水上スポーツ。普段とは違う目線の高さですから、陸の上からでは分からない景色の違いを発見・体感できるのが楽しいんです。スポーツとしてだけでなく、レジャーとしても楽しめるカヌー。もっとたくさんの人に、その魅力を感じてほしいし、そのため実際に乗ってほしいですね」。

わかふじ国体の開催から8年。「カヌーの町」を標榜したこの町は、どのくらいその方向性を進めてくれただろうか。

どれほどの人がカヌーに触れ、その魅力を実感してきたのだろうか…。

一人でも多くの町民が、一回でも多くカヌーに触れる機会を設け、その魅力を実感する。愛好者の輪をさらに広げていく。町外の愛好者とも交流を図っていく。そんな機会を、今後も数多くつくり出していくことが大切だろう。

B&G海洋センターでは数人のグループなどを対象とした「カヌー出前教室」を実施している。職員が丁寧に乗り方を手ほどきし、艇の貸し出しにも応じている。この町には、未経験者でも気軽にカヌーに触れる機会がある。水の上を楽しむ環境がある。そういった地道な活動の積み重ねが、「カヌーの町」定着への、確実な足跡となっていくはずだ。



バイキングカヤックジャパンが主催するフィッシングカヌーの試乗会が11月中旬、接岨湖周辺で開催された。カヌーと釣りの魅力を融合する試み。艇は競技用と違って安定性に富み、中の水をかき出しやすいなどの配慮もなされた設計。漁協の許可を得て実施された試乗会では、接岨湖から関の沢まで約1時間のクルーズと釣りを楽しんだ。会に参加した商工観光課岡井佳仙課長は「釣りとかヌーの融合は新しい発想。こぐのをやめれば静寂が訪れ、バードウォッチングにも最適。環境にも優しいため、これから主流になっていく可能性もある」と話していた。

## つながるもう一つの可能性 「川根高等学校」 若い世代がカヌーに打ち込む環境がここにある

平成10年創部・インハイ初代王者



▲川根高校カヌー部女子の「インターハイ優勝」を祝って町議会から贈られた盾  
▶平日の川根高校カヌー部。冬季は主に体力向上を目指して、バーベル上げなどの筋力トレーニングに励んでいる

川根高校カヌー部は平成10年に誕生した。わかふじ国体を5年後に控え、地元高校から選手を送り出そうという目的で創部された。

当初練習場が確保できず、静岡市の巴川などへ出向いて練習した。しかし行き来に時間がかかり過ぎるため、練習場を確保すべく各方面と折衝を重ねた。その結果、平成13年から接岨湖での練習が可能となった。

日本を代表するカヌー選手池住秀夫コーチ（のちの顧問）の指導の下、練習中だけでなく、日頃の健康管理にまで気を配ることで、部員たちの身体能力、競技力はめきめきと向上していった。わかふじ国体の開催に前後して、全国の高等学校でカヌー部を創設する動きが加速。平成18年、インターハイ（全国高等学校総合体育大会）に「カヌー競技」が加わった。川根高校カヌー部は、並み居る強豪を抑えて決勝に進出し、見事初代チャンピオンに輝いた。

部の現況・展望を池住顧問に聞く

池住 現在、カヌー部には8人が在籍。

3年生が引退したため、1年生5人、2年生3人で活動しています。昨

年は井澤一彰がインターハイや国体で入賞するなど大きな成績を残しました。現在、その穴を埋めようと、

下級生が必死で取り組んでいます。しばらくの間、朱澄さんがカヌー部の練習に参加してくれました。積極的な部員は「ここはどうしたらいいですか」と質問していました。から、いい刺激になったようです。朱澄さんが在籍していた頃のカヌー部はガッツがありました。朱澄さんだけでなく、他の部員もやる気に満ちていましたね。だからこそ、インターハイ初代王者という栄冠につながったんだと思います。そういった偉大な先輩がいたことを忘れないよう、当時のメンバーが寄せ書きしたインターハイの「のぼり旗」を、今も艇庫に飾ってあります。

何のスポーツでもそうですが、「趣味」と「競技」では大きな違いがあります。強くなるためには「楽しい」だけではだめ。厳しい練習も必要です。つらさやきつさを経験して、やりがいや魅力を実感できるように



川根高等学校カヌー部顧問 池住秀夫さん

なつて初めて成長できる。その道で大成しようと思ったら、少なくとも10年かかるのではないのでしょうか。ですから高校の3年間はステップアップの途中段階。本格的にカヌーを始め、競技力を伸ばす。そしてここから大学などに進んでさらに高みを目指す。そうやって大きな舞台へ羽ばたいていくための通過点でもあるんです。井澤一彰は日本大に進むことが決まりました。本人がどこまで頑張り通せるか未知数ですが、やりきれれば大化ける可能性もあり、今から楽しみにしているんです。

小・中学校でカヌーを体験した子が「またやりたい」と思った場合、この町には川高カヌー部があります。ここがカヌーを始めるきっかけになったり、通過点になったりします。他県では中学からカヌー部がある学校もありますから、決してここが恵まれていたとは言いませんが、県内の高校でカヌー部があるのはうちと焼津水産だけ。ほかの市町にはない大きな強みだと思います。



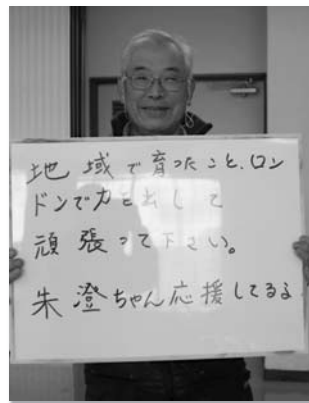


田代区長(朱澄さんの出身地) **坂本陽俊**さん(田代)

朱澄さんが小さい頃、兄弟3人で、近所を飛び回っているのをよく見かけました。アジア競技大会の後で久々に会ったら、たくましく立派な姿になっていて驚きました。厳しいトレーニングのたまものでしょう。田代区は戸数80戸ほどの小さな地区。オリンピック選手の誕生は、区民にとって何より励みになる明るいニュースでした。区民のほとんどが大村あすみ選手後援会に入会し、全体で応援しているという気持ちが高まっています。朱澄さん、私たちがついていきます。ケガにだけは注意して、本番ではその実力を存分に発揮してください。メダルうんぬんではなく、終わった後に「満足できるレースだったと思えるか」。それが一番大切です。朱澄さんが「充実したレースだった」と思えたら、それが私たちにとって一番の喜びなんです。



八木朝子さん(地名)



大石博人さん(接岨)



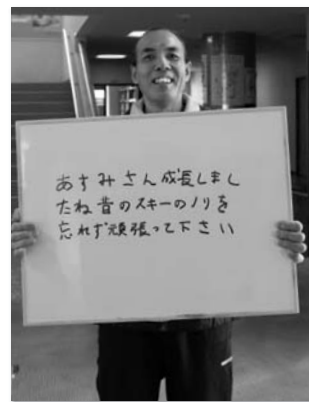
佐野智行さん、美紀さん(奥泉)



鈴木久雄さん(家山)、石川由香さん(千頭)



大石宏さん(千頭)



鈴木初次さん(奥泉)



山下花子さん(水川)



藤田聡さん(高郷)



Jeffrey Lillyさん(千頭)



坂下秋枝さん、風間敏興さん、小長谷美喜代さん(千頭)

中川根野球少年団の仲間たち  
高畑駿樹君、加藤大雅君、  
小平恭嗣君、森脇稜太君本川根イーグルスの仲間たち  
竹野雄大君、鈴木綾馬君、  
宮島洸樹君、宮木貫輔君

message for asumi カヌーのまち川根本町の期待の星。ロンドンオリンピックでは、失敗を恐れず自分の力を出し切ってください(菊川市・30歳代・男性) 自分を信じて頑張ってくださいね。応援しています(牧之原市・40歳代・女性) 代表おめでとうございます!夢の大舞台でこれまでの成果を出し切ってきてください!(富士市・20歳代・女性) 念願の五輪出場おめでとうございます。憧れの大会で頑張るあすみさんを力一杯応援します!(菊川市・30歳代・男性)

## あーちゃん、世界最高の舞台を思いっきり楽しんできてね!!

共にインターハイ(高校総体)を戦った川高カヌー部仲間から届いた「メッセージ」

- 安竹夏未さん** きつとあすみちゃん自身に色々な思いがあると思うけど、世界の大舞台であすみちゃんが満足いくレースができることを心から願ってるよ。私たちはあすみちゃんが一番の応援団だよ!
- 西田雅世さん** 応援してくれる人がたくさんいるからこそ、大きなプレッシャーも感じていると思います。後悔のない「楽しい」って思えるレースをしてきてね!
- 井澤舞さん** オリンピック出場おめでとう!私自身も大きなパワーをもらいました。「頑張れ」ではなく、カヌー部おさまりの「頑張れ」で応援してるよ。ロンドンから本町に、日本中に、たくさん元気と感動を届けてね!



写真左から(朱澄さんを除いて) 安竹夏未さん、西田雅世さん、杉浦麻美さん、井澤舞さん



中原緑さん(千頭)

朱澄ちゃんに「川根茶」のロゴが入ったポロシャツ、Tシャツ、ベストをプレゼントしました。もしもそのシャツを着た朱澄ちゃんがテレビに映れば、町の人にとって大きな励みになると思うんですね。彼女が頑張る姿を見て、みんなが元気がなったり、勇気を持てたりしたらすごくすてきなこと。オリンピック選手というと、すごく遠い存在のように感じますが、朱澄ちゃんは違います。昔も今も変わらない朱澄ちゃんのまま。彼女のルーツはこの町なんです。朱澄ちゃんを知っている人も、知らない人も、身近な存在なんだって思ってほしいですね。

朱澄ちゃんは、私たちの身近な存在なんです



大村あすみ選手後援会事務局長

### 筑地秀昭さん(小長井)

大村あすみ選手後援会では、皆様のご支援・ご協力をいただきながら、朱澄さんの支援活動をしています。現在、朱澄さんの軌跡を振り返る「写真展」を文化会館で準備中です。会場にはカヌーも展示しますので、皆さん実物に触れてもらえたらと思います。6月頃には、全町挙げての壮行会を開く予定です。みんなの応援を朱澄さんの力にして、ロンドンに旅立って欲しいと思っています。オリンピック開催期間中には、各家庭の軒先にメッセージ付きのちょうちんを飾って、町全体で一体となって応援ムードを盛り上げていきたいと考えています。

今後も皆様と一緒に、この大きな喜びを共有しながら、ご支援をいただきながら、世界に羽ばたく朱澄さんを応援していきます。



中村美王さん(奥泉出身)

ついにオリンピック出場!すごい!朱澄さんは国体とかにいつも出場していて、それが当たり前の感じがしていましたが、何かを極めるって並大抵の努力じゃないですよ。改めて「努力の人」だなんて思います。そんな人が、同じ町の出身で、しかも中学の先輩だなんて、めちゃくちゃ誇りに思います。それに、なんと言っても「かっこいい」ですよ!

朱澄先輩は「努力の人」 私たちの誇りです

世界に羽ばたく朱澄選手、全町挙げて応援を

【問】大村あすみ選手後援会事務局 ☎(59)333022

# 応援

yells for asumi

町の人からの応援メッセージ みんなの声が、みんなの心が 朱澄さんの夢を大きく後押しする

message for asumi ついにオリンピック出場の夢をかなえたあすみちゃん!清流のように素直で爽やかなあなたをずっと応援しています(島田市・50歳代・女性) 静岡県内からオリンピック選手が出ることを誇りに思います。結果を求めるよりも、朱澄さんらしいレースをしてください。応援しています(御前崎市・20歳代・男性) オリンピックという大舞台をぜひ楽しんでください!(焼津市・30歳代・男性) あすみちゃん!世界へ羽ばたけ!(小山町・40歳代・女性)



本川根カヌーレーシングチーム指導者

## 新山典子さん

(旧姓：漆畑典子・静岡市清水区)

元静岡県カヌー協会会員。NEW!!わかふじ国体開催前、役場国体準備室に勤務し、本川根カヌーレーシングチームの指導にあたる。朱澄さん自身が取材の中で「私のカヌー人生で最も影響を受けた人です」と語っていた人。

わ かふじ国体の開催前、県カヌー協会から照会を受けた私は、川根本町(旧本川根町)に移り住み、役場国体準備室で国体開催に向けた選手育成などに携わりました。  
あーちゃん(朱澄さん)がカヌーを始めたばかりの頃から見ているのですが、本当に立派な女の子。絶対弱音を吐かない、泣き言を言わない、そんな子でした。カヌーは体重別でクラス分けされているわけではないため、単純に体が大きい方が「得」な競技です。あーちゃんは小柄な方でしたから、大きい子の練習について行くのはさぞ大変だったと思うんです。でもそのハンデにめげることなく、いつもニコニコ、前向きな姿勢で練習していました。本当はつらい時も苦しい時もあったと思います。でも、そんな気持ちは一切見せず、楽しそうにしているのがとても印象的でした。身の回りのこともきちんとしていましたね。朝の練習も寝坊せず来ていました。大人の私から見ても、感心することの方が多かったです。負けず嫌いな一面もありまし

た。普通、小学生が自分より体格の大きい高校生に競り負けたとしたら「仕方ないか」と思うものです。でもあーちゃんは「くやしいうって言うんですね。そこが今の強さにつながっているのかも知れません。  
**新** 潟国体で日本トップの選手を負かして優勝を決めたあと、約10年ぶりにあーちゃんとの再会しました。それまでの活躍はネットなどでずっと気になっていました。いつもすごいなあと思いつつ、でもなかなか会うことはできなくて。  
久しぶりにあーちゃんの顔を見たら、もう涙が止まらなくなつてしまつて…。ろくに言葉も出てきませんでした。会えただけで感激してしまつて…。本川根カヌーレーシングチーム時代のTシャツを、今も変わらず着てくれていました。それを見て、また泣けてしまつて…。ずっと変わらないままのあーちゃんがある。言葉なんかいりませんでした。  
これから、ロンドンに向けてさらに練習を積んでいくあー

ちゃん。これまでも十分すぎるほど頑張つて、努力を重ねて、今に至つたんだと思います。やるべきことが分かっている子です。今さら私が「頑張つて」なんて軽々しく口にはできません。  
ただ私が願うのは「今のまま、気さくで、謙虚で、頑張り屋のあーちゃんのまま、真つ直ぐに進んでいってほしい」ということです。先日2人で交わしたメールに、あーちゃんは「みんながつくつてくれた道を、がむしゃらに走り続けます」と書いてありました。なんて謙虚な子だろうと。本当にすごい子だなあと思いました。私も救われる思いがしたんです。  
**私** が、あーちゃんに一番伝えたい言葉。それは「ありがとう」という言葉です。親子の間柄だと「生まれてくれてありがとう」と言いますが、まさしくそんな感じなんです。  
あーちゃん、私と巡り会つてくれて本当にありがとう。これからも私は、あーちゃんが歩んでいく姿を、ずっと、ずっと見つけ続けるからね。

message for asumi 大学休学してまで勝ち取ったロンドンの切符。悔いのないレースができますように。みんな応援しています(伊豆の国市・30歳代・男性) 同じ静岡県民として応援しています。力を出し切って頑張ってくださいね!(伊東市・30歳代・男性) 夢の舞台で大暴れしてください。世界一目指して頑張れ!(吉田町・30歳代・男性) 目いっぱい楽しいレースを!胸いっぱいの経験を!すてきなオリンピックになりますように!(三島市・20歳代・女性)

# 何よりも「ありがとう」の言葉を贈りたい 変わらないあーちゃんのまま、真つ直ぐ進んでいってね



井口晶彦さん(小長井)



榊原美晴さん、鈴木ほのかさん(梅高)



河原崎全さん(徳山)



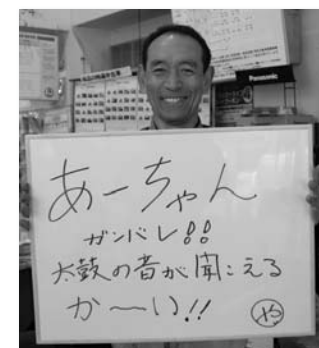
秋元とき江さん、中村巳佐子さん(藤川)



前田さとみさん、龍太郎さん(上長尾)、森下加奈代さん(小長井)、小川拓哉さん(田野口)



長塚智恵子さん、山本佳子さん(上長尾)



中原康夫さん(千頭)



坂本基史さん(下泉)

## yells for asumi 届けみんなの思い!朱澄さんの胸に

子ども心に感じた「オリンピック選手」のすごさ。世界最高の舞台の雰囲気を感じて

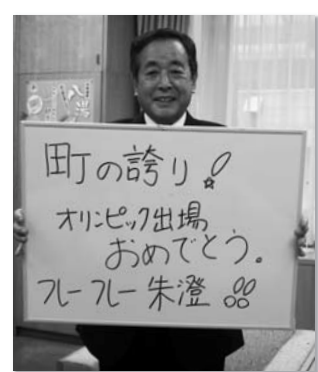


ミュンヘンオリンピック代表の 柿下選手を見送りました 山本靖実さん(徳山)

1972年、ミュンヘンオリンピックに出場した柿下選手(ボート競技4人乗り)を送り出すため、駿河徳山駅に向きました。私は当時小学生。駅には横断幕が掲げられ、住民は、まるでお祭りのようににぎわい。子ども心に「オリンピック出場つてすごいことなんだ」って実感したのを覚えています。  
**競** 技種目は何であれ、日本の代表になるというのは、オリンピックという世界最高の舞台。楽しむというレベルではないのでしようが、ぜひ、独特の雰囲気を感じてほしいと思います。  
当日をベストコンディションで迎え、精いっぱい力を出し切ってください。朱澄さん、応援しています。



笹木秀明さん(小長井)



佐藤公敏さん(接叡)



神東美希さん(徳山)

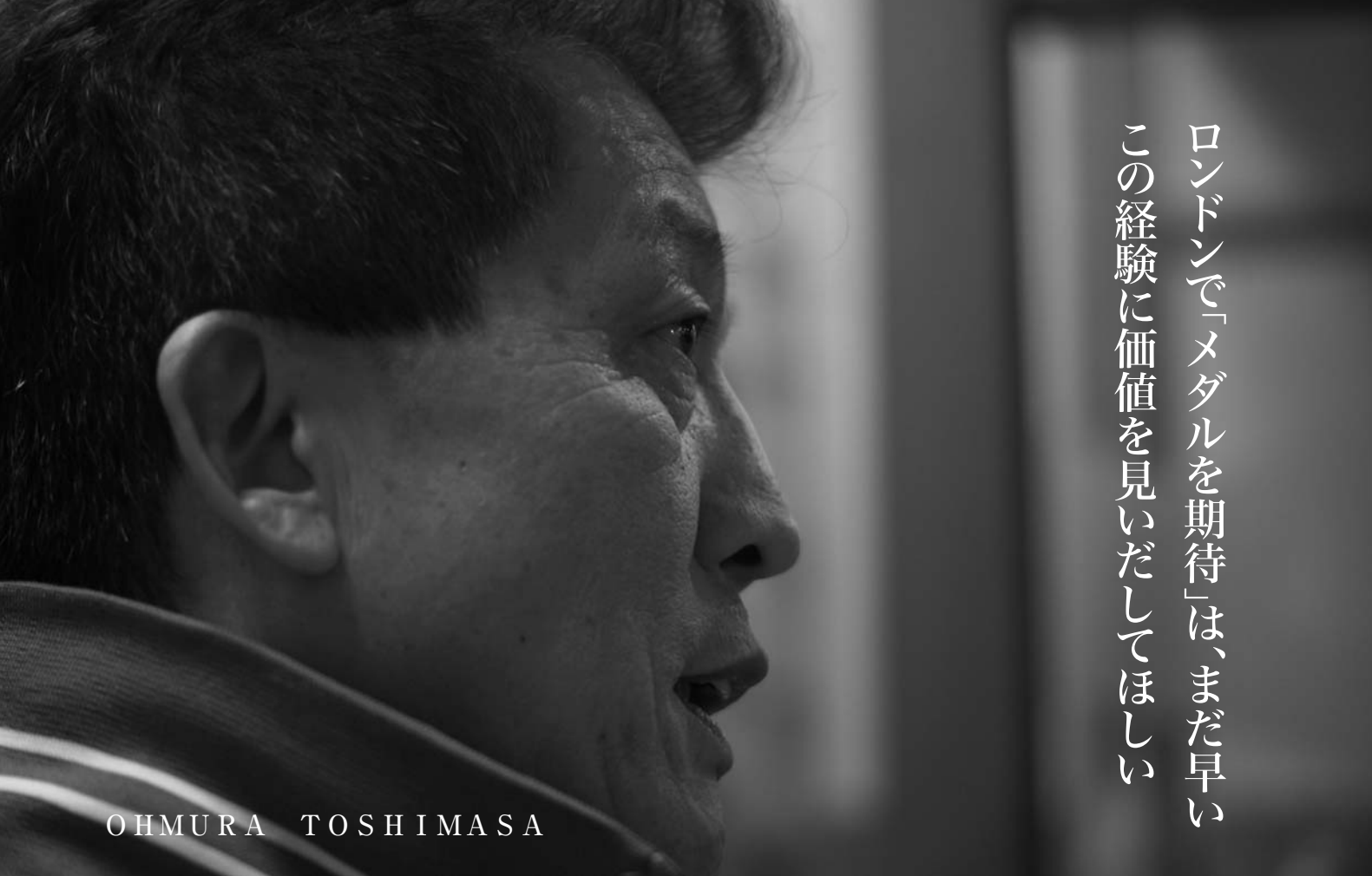


鈴木乃亜さん(徳山)、村上一希さん(藤川)



橋本泳子さん、宿奈さん、明奈さん(高郷)、山本賢人さん(高郷)、小笠原成南さん(梅高)

message for asumi あすみちゃんオリンピック出場おめでとう☆世界の舞台で自分の力を存分に発揮して!応援しています!!(菊川市・20歳代・女性) 小さい頃に描いた夢を買き通した朱澄さんは本当にスゴイ!ロンドンで夢を完成に近づけてください(磐田市・30代・男性) ほかの人には分からない苦労がたかさんあったと思います。日本中があすみちゃんを応援しています。楽しんで!(三島市・40歳代・男性) なつやすみにはじめてカヌーにのりました。まっすぐのことがとてもむつかしかったです。オリンピックせいっぱいがんばってください!(河津町・5歳・女の子)



OHMURA TOSHIMASA

**大村敏正** 大村朱澄さんの父にして本川根カヌーレーシングチームの産みの親。わかふじ国体前はB&G海洋センターに勤務し開催準備や選手育成などに携わる。静岡県カヌー協会副理事長。

# 父・敏正の言

本川根カヌーレーシングチームを立ち上げ指導者としても長く活躍した大村敏正さん  
いつも朱澄さんを一番近くで見してきた  
父の目線、監督の目線でエールを送る

## 血だらけのカヌー

わかふじ国体を本町に誘致しよう、地元選手を国体に送り出そうという気運が高まっていた頃、私はB&G海洋センターで社会体育部門の仕事をしていました。その盛り上がり方を見て「じゃあ、おれがカヌーのクラブをつくるよ」と一念発起して、本川根カヌーレーシングチームを立ち上げたんです。2人の兄はほぼ強制的に入会させました。先に入会している子がいる方が、他の子を勧誘しやすかったんです。朱澄

は、年齢制限のため「わかふじ国体」に出場できないことが分かっていましたから、入会を勧めたことはありませんでした。ただ、兄たちが毎日どこかに出かけていく、自分にはぼつんと家に残される……。寂しかったんでしょう、兄も慕っていましたからね。ちよくちよく練習に付いてくるようになったんです。最初は見ているだけでしたが、いつの間にか入会していました。

私が叱るのは、いつも2人の兄ばかり。朱澄には怒った試しがないんです。ひいきではなく、怒るところがないんですよ。言われたことはちゃんとこなしていましたから。上級生と同じメニューを与えても、必死になってやり切っていました。ハンディをやるうなんて言ったら、こつちが怒られてしまいそうな雰囲気がありましたよ。

ある日、朱澄がおりたカヌーを見ると、カヌーの中が血だらけだったんです。どこかをケガしたんだ！って本人に聞いたですと……。鼻血だったんですね。朱澄は小さい頃、鼻が弱くてよく鼻血を出していたんです。その時も練習中に鼻血が出たらしくて、ぼた

ぼた落としながら、それでもカヌーをおりなかつたんです。普通の子であれば、監督に報告して、岸辺で休むなどの処置をする。それが当然なんです。朱澄の場合は違いましたね。監督に報告したら「お前は休め」って言われる。それがいやだったんだと思います。自分の子どもながら「怖いな」と危機感を覚えました。やり遂げたいという気持ちが前に出過ぎてしまい、自分の体調よりも練習を優先させてしまう。これは選手を管理する指導者にとって、何よりも怖いことです。今はそんな心配はしていませんが、あの時は本当にぞつとしました。

## メダルはまだ無理

今さら私が技術的なアドバイスをする余地はありません。指導者だった私のレベルを、朱澄はとつくに超えています。親としてはうれしくもあり、寂しくもありといったところでしょうか。代表の合宿などを通じて、みっちりトレーニングしてきますから、何も心配していません。ただ、私が毎回必ず話すのは「セルフコントロール」。つまり体調管

ロンドンで「メダルを期待」は、まだ早い  
この経験に価値を見いだしてほしい

理をしつかりやれということ。合宿にしろ大会にしろ、自分の実力を最大限発揮するために、日頃のトレーニングをいかに密度濃くできるかにかかっています。そのためには風邪なんて引いてられません。ケガだってそうです。一日寝込んで練習時間を無駄にするくらいなら、普段から体調だけは気をつけろと。それだけは必ず話して聞かすようにしています。

今の実力では、ロンドンオリンピックは「参加するだけ」になってしまいうね。アジア予選で中国選手に負けてしまうようでは朱澄もまだまだ。世界のトップとは渡り合えません。今は世界のトップレベルの舞台に立たせてもらうだけでありがたいこと。既に朱澄の目は、次の、もしくはその次のオリンピックでのメダル争いを視野に入れていると思います。

ここまで、階段を一つ一つのぼるようにステップアップしてきました。そして、ここからまた次へとつなげていくことが大事なんです。

朱澄は最近、応援してくれる人たちに「皆さんに良い結果を報告したい」と言っている

るようですが、それがイコール「メダル獲得」ではないと思います。オリンピックに出場するという貴重な経験。朱澄なりに価値を見いだして帰ってきてほしい。それがきつと、さらなる成長につながります。

## 自分に課した「約束」

3人の子どもたちは、私の仕事の関係で、強引にカヌーの世界に引き入れたようなもの。たくさんの喜びをもらいましたが、つらい思いもさせたいと思います。その分、これから私が恩返ししたい。3人がカヌーを続けていく間は、その気持ちを尊重してやりたいです。「バイトもするな」と伝えてあります。「おれが全面的にサポートするから、時間があつたら1秒でも長くカヌーに乗れ」と。それについては、朱澄も、2人の兄についても全く変わらない私のスタンスなんです。

私はこれからも、子どもたちの成長をずっと見守り続けるし、全力でサポートを続けていきます。これは自分自身に課した約束であり、責任でもあるんです。

# 父として、指導者として…。朱澄さんの成長を見守り続けた22年 今、愛娘に対して、どんな思いを抱くのか、どんなエールを送るのか

特集  
約束の道

大村朱澄・努力でつかんだロンドン行きの切符

# the beginning

ここには、私を育ててくれた愛情がある  
みんながカヌーに親しめる土壌がある  
この町こそ、私の原点

# 原点

ロンドンオリンピックがゴールじゃない

正直に言えば、今はまだオリンピックの舞台でトップを競うレベルにはありません。まだまだ足りないところだらけ。スピードも、持久力も、水をかく力強さも…。今後、課題を克服するためのトレーニングに集中して取り組みます。もつとレベルを上げ、万全の状態の本戦にのぞみたいと思っています。

小さい頃からずっと目標にしていた「オリンピック出場」。でも、実現したからといって、そこがゴールなわけではありません。オリンピック出場を果たしたら、今度は「決勝に進出したい」、その次には「メダルに手を届かせたい」。…。そんな風に一つの目標達成は、また、新たな目標へのスタートラインでもあるんです。

ロンドンで全ての目標が達成できるとは思っていません。次の大会、次の次の大会もあります。それらに向けて、また一歩一歩、階段を上がっていき

と思っています。

私はこれまで、日本のトップ選手たちの背中をひたすら追いつけてきました。必死で練習して、でも追いつけなくて…。くやしい思いもしましたし、きつい時もなくさんありました。

そんな自分が、徐々に「追われる立場」になってきたのを感じています。私にとっての北本忍さんのように、選手としてだけではなく、人間としてもお手本となるような存在になれたら。次に続く子どもたちが、あこがれるような選手になれたらいいなと思っています。

次の世代に伝えたいこと  
数え切れないほどある

オリンピック出場という一つの目標。スポーツ選手にとって、誰もが一度は夢を見る舞台です。私がそれを成し遂げることができたのは、歩んできた道のりの途中途中で、たくさんの出会いに恵まれたからでした。この町でカヌーと出会えたこと。カヌーを教えてくれた人、一緒に頑張ってきた仲間、応援してく

れる人、支えてくれる人、背中を押してくれる家族…。私が進むべき道を指し示してくれた、そんな多くの出会いがあったからこそ、今の私があります。皆さんに「恩返し」をしたい気持ちでいっぱいなんです。

カヌーを通して知った「出会いの大切さ」や、自分が学んだこと、知ったこと、重ねた経験、自分自身が変わったこと…。次の世代に伝えていきたいことが、数え切れないほどあります。

今度は私が伝える番。カヌークラブとかスポーツ施設の指導者、中学・高校のカヌー部顧問など、形は何でもいいです。私にカヌーの楽しさを教えてくれた漆畑典子さんのような存在に、いつかになりたい…。それが私の理想なんです。

これからも、何らかの形でカヌーと関わっていききたいし、それこそが自分が歩むべき「約束の道」なんだと思っています。私にとってカヌーは、「夢」であり「人生」であり「相棒」みたいなもの。これからも私は、カヌーとともに生きていきます。

写真で振り返る「大村朱澄選手ロンドンオリンピック出場までの軌跡」を町民ギャラリーと文化会館で開催します。生涯学習のひろば(30ページ)に日程を掲載しています。お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。

11月16日、自主トレーニングを終えた普段着の朱澄さんをインタビュー。その気さくな性格そのまま。屈託のない笑顔がまぶしかった。

特集 約束の道 大村朱澄・努力でつかんだロンドン行きの切符 終



5区 鈴木龍弥 Suzuki Ryuya



1区 石川愛理 Ishikawa Airi



6区 山下富士男 Yamashita Fujio



2区 高畑駿樹 Takahata Shunki



7区 山中裕斗 Yamanaka Yuto



3区 蘭田菜良 Sonoda Nara



8区 池本夢実 Ikemoto Yumemi



4区 前川豊美 Mackawa Toyomi



9区 前川裕音 Mackawa Hirono



10区 高畑剛毅 Takahata Takaki



# プライド PRIDE

第12回静岡県市町対抗駅伝競走大会・12月3日

そば降る雨と寒さの中  
一本のタスキをゴールまでつないだ11人  
選手一人一人が背負っていた  
「川根本町を愛する」という誇りに  
胸を張って「お疲れさま」を言おう

this month HighLight 2  
今月の注目

※各選手の記録などは生涯学習の広場に掲載しています。



【取材・撮影協力】志太榛原広報研究会(藤枝市、焼津市、島田市、菊川市、牧之原市、御前崎市、吉田町、川根本町)、田方広報研究会(伊豆の国市、伊豆市、函南町)、三島市、伊東市、富士市



11区 大窪健太 Ookubo Kenta

1500mタイムレース 宮島洸樹 Miyajima Kouki

1500mタイムレース 小西藍 Komisi Ran



this month HighLight 1  
今月の注目

## 2012年のまちづくり【考】 インタビュー 佐藤公敏 川根本町長

昨年3月11日に東日本を襲った大地震、そして津波に伴う福島第一原発の事故により、日本は大きな痛手を負いました。夏場には豪雨や台風も頻発し、特に台風12号では林道富沢線が決壊。崎平区富沢地区が孤立状態となり、地区の皆さんは現在も不安を抱えています。そういった不安を一日も早く取り除くよう復旧に取り組んでいます。迂回路の新設も早期に着手できるように努めているところです。

素晴らしい話題もありました。その一つは、大村朱澄選手が念願のロンドンオリンピック出場権を獲得したことです。あすみ選手後援会には、非常に多くの皆さんにご参加いただき、大変なご厚志をたまわりました。皆さんの熱い声援が励みとなり、オリンピック出場につながったと考えています。朱澄さんのロンドンでの活躍と今後の成長を楽しみにしています。

現在、平成24年度当初予算の編成作業を進めています。新年度における基本的な姿勢は前年度同様「安全安心のまちづくり」「元気で活力に満ちたまちづくり」「住民が夢を持つて明るく前向きに取り組めるまちづくり」を目指した予算にしています。

1 安全安心のまちづくりは、東海地震や豪雨などの自然災害が懸念される中で、人命、暮らし、そして財産を守るためのインフラ整備や防災対策、健康で明るく過ごすための医療・福祉施策の充実などを図っていきます。

2 元気で活力に満ちたまちづくりでは、農林業と商工観光業などが連携し合って付加価値の高い産業構造を目指していきます。森林や茶園が持つ多面的な機能に着目し、建材や茶葉を生産するだけではなく、トレイルラン、ハイキング、癒しの場などとしての空間の利活用と、林家や農家の暮らしを紹介し体験するなど、新たなツーリズムの展開を図ることで交流人口の増大、滞留時間の拡大を図っていきます。

## 自慢の川根茶を堪能する催しを初開催 「川根時間」で心癒されるひとときを

川根茶秋期イベント実行委員会  
が主催する第1回「川根時間」  
は11月23日、千葉山智満寺(上  
長尾)で開かれました。赤く染  
まる木々の下で、ゆつたりと流  
れる時間とおいしい川根茶を堪  
能してほしいと企画した催し。  
町民にとつての川根茶再発見の  
場とするともに、川根茶で外  
からの誘客を図る「茶業と観光」  
の新しい試みでもあります。

来場者は、本年度の全国茶品  
評会で上位を獲得したお茶の味  
に感激したり、本町が誇る茶農  
家たちとの川根茶談義に花を咲  
かせたりしながら、茶産地なら  
ではの休日のひとときを楽しみ  
ました。また「茶歌舞伎(闘茶  
会)」に挑戦したり、町内の菓子  
店から集めた菓子を味わったり  
と、300人を越える来場者は  
川根茶がつくる癒しの時間を心  
ゆくまで堪能しました。



「茶歌舞伎の間」真剣な表情で飲み比べ。 極上のお茶を味わう「極みの間」。特に一煎目の味は驚きだった様子。

11月中に実施した情報通信基  
盤整備事業に関する住民アン  
ケート。町内18歳以上の皆さん  
(高校生除く)を対象に7,322  
通発送しました。期日までに回  
答があった数は4,576通で、  
回答率は62・5%と非常に高い  
回収率となりました。皆さんご  
協力ありがとうございました。  
共通する設問について集計結

果を報告します。寄せられたご  
意見は、取りまとめた後、ホー  
ムページや閲覧文書でお知らせ  
していきます。  
町ではこのアンケート結果を  
受け、「情報通信基盤を整備す  
る必要がある」と認識し、光ファ  
イバーに限らず、ほかの可能性  
も検討しながら、現在の計画を  
見直します。

### ●住民アンケート各設問に対する回答 (主なものを抜粋)

問	答		
川根本町の将来にとって、 現在計画している「情報通 信基盤整備事業」は、必要だ と思いますか。	必要だと思う	1,253件	27.4%
	必要とは思わない	1,899件	41.5%
	わからない	1,253件	27.4%
	無回答	171件	3.7%

問	答		
テレビを利用した情報提供 は必要だと思いますか。	必要だと思う	1,378件	30.1%
	必要とは思わない	2,164件	47.3%
	わからない	952件	20.8%
	無回答	82件	1.8%

問	答		
見守りや声掛けをサポート するサービスは必要だと思 いますか。	必要だと思う	1,381件	30.2%
	必要とは思わない	2,045件	44.7%
	わからない	1,035件	22.6%
	無回答	115件	2.5%

問	答		
超高速インターネットに加 入したいですか。	加入したいと思う	1,043件	22.8%
	加入したくない	3,139件	68.6%
	無回答	394件	8.6%

## 情報通信基盤整備・住民アンケート結果速報 本町の将来に光ファイバーは必要か

企画課 ☎(56) 22211

本町アマチュア無線非常通信協力会の皆さんへ

## アマチュア無線のロールコール

本町では「川根本町アマチュア無線非常通信協会」  
を組織し、川根本町アマチュア無線ボランティアクラ  
ブと連携して、災害発生時の情報収集を目的に活動し  
ています。アマチュア無線は災害時や人命救助に大き  
く活躍をします。本町でも、防災訓練時には参加人員  
や被害状況の報告などにご協力いただいています。

協会の活動の一つとして、月1回の「ロールコール」  
を実施しています。原則毎月1日(祝祭日などの場合  
は直近の平日)、午後7時に145.000Mhzに参集してくだ  
さい。空いているチャンネルを探して、145.520Mhzを  
中心にロールコールします。

24年のロールコールは次のとおり。予定日をカレン  
ダーに記入するなどして忘れないようにしてください。

24年度 ロールコール 日程	1月10日 火 午後7時～	7月2日 日 午後7時～
	2月1日 水 午後7時～	8月1日 水 午後7時～
	3月1日 木 午後7時～	9月3日 日 午後7時～
	4月2日 月 午後7時～	10月1日 月 午後7時～
	5月1日 火 午後7時～	11月1日 木 午後7時～
	6月1日 金 午後7時～	12月3日 日 午後7時～

総務課 ☎(56) 2220

3枚(180日分)のカードがいっぱいになった人を紹介

## 健やかウォーキングカードで生き生き

健康増進を目的に作成した「健やかウォーキング  
カード」。続々と達成者情報が届いています。どなた  
でも個々の目標歩数・距離・時間などを地区の保健委  
員に申告してカードの交付を受けることができます。  
一枚のカードには60日分の歩行記録ができ、3枚(180  
日分)のカードがいっぱいになった人を「健やかウォー  
キング実践者」として紹介します(掲載の同意が得ら  
れた人のみ)。まだ「健やかウォーキングカード」の交  
付を受けていない人は、ぜひ、地区の保健委員または  
生活健康課健康室、住民生活室まで申し出てください。

地区	実践者	目標歩数・時間 (一日当たり)	180日間合計 歩数・時間	保健委員
寺馬	中村かず子	10,000歩	1,433,812歩	森 隆子
瀬平	藤田 幸男	5,000歩	960,625歩	川畑加奈子
前山	山本 彦明	10,000歩	1,907,542歩	鈴木 隆代
崎平	川畑 昭治	2時間30分	371時間30分	堀井智恵子

生活健康課 ☎(56) 2222

2012 1/21 土

日本一の  
マジックを  
日の当たりにする。

手妻とは  
演技・演奏・衣裳が  
一体となったステージを  
盛り込むという、  
日本が独自に生み出した、  
世界でも稀に見る  
素晴らしい芸術です。

手妻師 藤山晃太郎 新春公演

1月21日 土 午後6時開場 6時30分開演

チケット好評販売中です!

小学生500円、中高生750円、大人1,200円

詳細は文化会館までお問い合わせください。

【問】文化会館 ☎(59) 3106

奥大井ふるさと祭り実行委員会や商工会が呼びかけ

## 東日本大震災の被災地へ支援



商工会では若手の名産品であるこん  
ぶや酒などを販売。来場者に復興支  
援を呼びかけました

奥大井ふるさと祭り実行委員会では、同イベントの  
開催に併せて東日本大震災の被災地を支援しようと募  
金活動を実施。本部と案内所に募金箱を設置し、支援  
の輪を広げようと呼びかけました。

また町商工会では、岩手県商工会連合会と連携し東  
北地方の名産品を取り寄せ、ふるさと祭りと産業文化  
祭の両会場で販売。その収益金の一部を寄付しました。

ふるさと祭り会場に設置した募金箱と商工会の販売  
ブースからの寄付を合わせて26,671円を、岩手県大  
槌町に「おおつち復興寄附金」として送金しました。

商工観光課 ☎(58) 7077

# くらしの カレンダー

# 2012 1月

**役場本庁**

**【代表電話番号】** ☎56-1111

**1F** 税務課 ☎56-2223  
 福祉課 ☎56-2224  
 地域包括支援センター ☎56-2225  
 生活健康課 ☎56-2222  
 建設課 ☎56-2227  
 出納室 ☎56-2228

**2F** 総務課 ☎56-2220  
 企画課 ☎56-2221  
 産業課 ☎56-2226

**3F** 議会事務局 ☎56-2229

**総合支所ほか**

**【代表電話番号】** ☎59-3111

**1F** 商工観光課 ☎58-7077  
 管理室 ☎58-7073  
 住民生活室 ☎58-7070  
 福祉介護室 ☎58-7071  
 産業建設室 ☎58-7076  
 教育総務課 ☎58-2555  
 生涯学習課 ☎58-7080

文化会館 ☎59-3106  
 本川根B&G海洋センター ☎59-3332  
 山村開発センター ☎56-2231

## 各種相談・お知らせ

**行政相談**

1月18日☎ 9:00~11:30 生活改善センター  
**【問】総務課☎(56)2220**

**社会福祉協議会「よるず行政相談」**

1月18日☎ 9:00~11:30 生活改善センター

**社会福祉協議会「よるず相談」**

1月11日☎ 9:00~11:30 文化会館  
**【問】社協本川根事務所☎(59)2315 中川根事務所☎(56)1872**

**精神保健福祉総合相談（精神保健、断酒など）**

1月25日☎ 藤枝市中部健康福祉センター 13:15受付(断酒会)  
 1月11日☎ 島田市保健福祉センター 13:15受付  
 ※要予約 中部健康福祉センター障害福祉課 ☎054(644)9279

日	月	火	水	木	金	土
<b>1</b> 本川根診療所 ☎0547-59-3811 B & G : 休館 文化会館 : 休館	<b>2</b> 高木医院 (島田市) ☎0547-53-2006 B & G : 休館 文化会館 : 休館	<b>3</b> 森外科医院 (島田市) ☎0547-46-1181 B & G : 休館 文化会館 : 休館	<b>4</b> 文化会館 : 休館	<b>5</b> あそびの教室	<b>6</b> 定例健康相談	<b>7</b> B & G : 夜休館
<b>8</b> 織田医院 (島田市) ☎0547-45-3042 B & G : 夜休館	<b>9</b> 平井医院 (島田市) ☎0547-46-2236 B & G : 夜休館	<b>10</b> B & G : 休館	<b>11</b> やまびこ号 : A さゆり幼稚園親子登園 ☎57-2233 定例乳幼児相談 カロリーウォッチ教室①	<b>12</b> 子育て:お正月遊び (0、1歳児)	<b>13</b> やまびこ号 : B 子育て:お正月遊び (2、3歳児) ことばの相談(予約制) 三種混合予防接種	<b>14</b> B & G : 夜休館
<b>15</b> すぎもと耳鼻咽喉科 クリニック (島田市) ☎0547-47-3387 B & G : 休館 文化会館 : 休館	<b>16</b> やまびこ号 : C B & G : 休館 文化会館 : 休館	<b>17</b> 子宮頸がん・乳がん検診 カロリーウォッチ教室②	<b>18</b> やまびこ号 : D 子育て:三ツ星と交流 静岡厚生病院特定健診・後期高齢者健診 定例乳幼児相談	<b>19</b> 静岡厚生病院特定健診・後期高齢者健診	<b>20</b> やまびこ号 : E 定例健康相談 地区巡回健康相談 ことばの相談(予約制)	<b>21</b> B & G : 夜休館
<b>22</b> 本川根診療所 ☎0547-59-3811 B & G : 夜休館	<b>23</b> やまびこ号 : F B & G : 休館 文化会館 : 休館 ママケアスクール	<b>24</b>	<b>25</b> やまびこ号 : A おじさんキッチン 2歳・2歳6ヵ月児 歯科検診	<b>26</b> あそびの教室	<b>27</b> やまびこ号 : B 竹の子会 定例健康相談 地区巡回健康相談	<b>28</b> B & G : 夜休館
<b>29</b> 林医院 (島田市) ☎0547-53-2352 B & G : 夜休館	<b>30</b> やまびこ号 : C 文化会館 : 休館	<b>31</b> 子育て:お楽しみ会 B & G : 休館 カロリーウォッチ教室③	<b>志太榛原地域救急医療センター(内科・小児科) 1月の診療</b> <b>診療時間</b> 月曜～木曜日 午後7時30分～10時 金曜～日曜日 午後7時30分～翌日午前7時 ※ただし1月8日☎、15日☎、22日☎、29日☎の午後10時から翌日午前7時は小児科のみの診療となります。 ☎054(644)0099			

健康カレンダーなどは予告なく変更する場合があります。確認してお出かけください。健康カレンダーについては生活健康課☎(56)2222

休日当番医 ㈱榛原郡医師会HP <http://www.haibara-med.or.jp/> 子育て支援施設☎(57)2231 休館日:日、月、祝日

## やまびこ号のコース

**【問】生涯学習課☎(58)7080**

	地名集会所	西地名	塩郷	下泉駅	下泉原	農協茶工場	南部小学校	高郷住宅
<b>Aコース</b>	着 9:15 発 9:35	9:40 10:00	10:10 10:25	10:30 10:45	10:50 11:05	11:15 11:35	13:15 13:35	13:45 14:00
<b>Bコース</b>	着 9:20 発 9:40	尾呂久保 10:00 田野口駅 10:20	上長尾集会所 10:30 八中集会所 10:50	11:10 11:30	13:05 13:25	13:30 13:40	13:45 13:55	
<b>Cコース</b>	着 9:15 発 9:30	瀬平集会所 9:40 三津間集会所 10:00	久野集会所 10:10 平谷 10:30	10:40 10:50	10:55 11:05	11:15 11:35	13:30 13:45	13:55 14:15
<b>Dコース</b>	着 9:15 発 9:35	水川 9:40 田代 10:00	上岸集会所 10:35 総合支所 11:05	11:20 11:40	11:25 11:40	13:10 13:30	14:00 14:20	14:25 14:40
<b>Eコース</b>	着 9:30 発 9:50	桑野山 10:30 寸又峡上駐車場 10:50	寸又峡公民館 10:55 やまびこ資料館 11:15	13:00 13:20	13:40 14:00	14:25 14:45		
<b>Fコース</b>	着 9:15 発 9:30	藤川西平 9:35 藤川保育園 9:55	藤川区事務所 10:00 10:15	10:30 10:50	10:55 11:15	13:05 13:20	13:50 14:00	14:30 14:40



くらしのカレンダーは切り取って壁などに貼ってご使用ください。

## 冬が煌めくイルミネーション もりのくにで今年も光のシャワー始まる

昨年「もりのくに(奥泉)」では、冬季の誘客を図るため「ウインターイルミネーション」を始めました。11月から翌年1月までの約3カ月間、訪れた人を幻想的な世界へといざないました。

今年の点灯式は11月18日に開かれ、待ち焦がれた来場者が見守る中、佐藤公敏町長がスイッチを押し、辺りにまばゆいばかりの光のシャワーが注がれました。このイルミネーションは1月いっぱい見られます。



光のトンネルではトナカイが来場者を迎えます。



イベントの最後に実施されたもち投げは毎年大人気。

## 本町秋の風物詩「ふるさと祭り」 ステージイベントや体験コーナーも人気

川根本町秋の風物詩「奥大井ふるさと祭り」は11月12日、奥大井音戯の郷特設会場で開催されました。特設ステージでは、各コンクールなどの表彰式が挙行され、その後は、赤石太鼓、キッズソーラン演舞、中電有志バンド演奏、大道芸人デビットラムゼイさんの愉快なステージイベントなどが来場者の歓声呼びました。イベントのラストを飾るもち投げでは、大人も子どもも夢中になって、笑顔でもちを拾いました。

## 来訪者の目線で町づくりを 静岡文化芸術大学と千年の学校が交流

11月19日、20日の2日間、静岡文化芸術大学の教員・学生14人が本町を訪れ、千年の学校の学生とともに、現地視察や体験などを通して中山間地域の現状を学びながら交流を図りました。20日に開かれた発表会では、文芸大の学生たちが「来訪者の目線に立った観光地図やパンフレットの作成」「空き家を利用した体験型宿泊メニュー」など、若い目線のアイデアに、千年の学生も感心しきり。発表会後には、再会を約束しました。



発表会に向け意見を交わしていました。



優勝を勝ち取ったチュープリの皆さん

## 熱戦展開チュープリに栄冠

### B & G海洋セで後期バレーボール大会

本川根B & G海洋センターでは11月16日、後期バレーボール大会が開かれました。参加した9チームは、2ブロックの予選リーグを戦い、勝ち残った4チームが決勝トーナメントに駒を進めました。

各コートで白熱した試合を繰り広げた結果、チュープリが栄冠を勝ち取りました。

おめでとうございます。結果は次のとおり。

- ①チュープリ②中央③サクセスB、フェニックス

## 川根本町のまちの話題

# 必死の走りでタスキをつないだ 2時間35分

第12回静岡県市町対抗駅伝競走大会開催

第12回静岡県市町対抗駅伝競走大会は12月3日、静岡市内（県庁前から草薙陸上競技場）で開催されました。チーム川根本町は、第1走者からアンカーまで必死の走りでタスキをつなぎ、ゴールまで走り抜きました。1500mタイムレースでは宮島洗樹君が町の部4位に入る健闘を見せました。本町代表として誇りを持って駆け抜けた選手、精一杯応援してくれた町民の皆さん、選手を支えたスタッフの皆さん、ありがとうございました。



▲1500メートルタイムレース町の部で4位入賞した宮島洗樹君

記録：町の部12位 タイム：2時間35分40秒

1 石川愛理（川根高校1年）	15分37秒 ⑩
2 高畑駿樹（中央小6年）	6分38秒 ⑪
3 藺田菜良（中央小5年）	5分49秒 ⑪
4 前川豊美（小長井）	14分37秒 ⑪
5 鈴木龍弥（川根高校1年）	21分24秒 ⑪
6 山下富士男（崎平）	15分24秒 ⑥
7 山中裕斗（中川根中3年）	12分41秒 ⑦
8 池本夢実（本川根中3年）	12分16秒 ⑫
9 前川裕音（本川根中3年）	18分47秒 ⑩
10 高畑剛毅（川根高1年）	14分46秒 ⑪
11 大窪健太（小長井出身）	17分41秒 ⑪
1500m 宮島洗樹（本川根小6年）	5分02秒05 ④
1500m 小西藍（中川根第一小5年）	5分58秒14 ⑫

※タイム横の丸数字は区間順位を表す。



## ●成人式のご案内

晴れの門出を迎える新成人を、全町民あげてお祝いします。ぜひご来場ください。

日時 1月8日(日) 午後1時開式

場所 文化会館

内容 新成人の主張、中学生の祝いの言葉、アトラクションなど



## ●ファミリーマラソンスティックゴルフのご案内

お茶の里ファミリーマラソン、スティックゴルフ大会を3月4日(日)に開催します。皆さんぜひご参加ください。詳しい日程は決まり次第、本川根B&G海洋センターからお知らせします

【問】本川根B&G海洋センター ☎(59) 3332

# 紅葉に染まる秋の川根本町を一日満喫

すこやか大学第3回学習会に120人が参加

すこやか大学では16、18、22日の3回に分け「わが町再発見～秋の町内探訪」を開催。中部、南部、北部の受講生のべ120人が参加しました。

秋の自然に触れながら、水川阿弥陀堂、椎茸の菌床栽培（輪久屋）、智満寺、つちや農園、ウッドハウスおろくぼ、白羽山展望台、みどりの丘・みどりの丘えまつを巡り、人・土地・施設などの魅力を学びました。

水川阿弥陀堂で500年の歴史を持つ彫刻や仏像、壁画を見たり、椎茸の菌床栽培に取り組む八木さんやお茶作りに励む土屋さんから話を聞いたりしました。

また智満寺で紅葉の美しさを堪能したり、白羽山展望台からの眺めに感動したりすることで、わが町の自然の豊かさを再発見できました。最後に訪れた「みどりの丘、同えまつ」では、同所利用者の皆さんとの交流も楽しみました。



白羽山展望台下から絶景を眺める参加者たち。説明は小澤節子さん。

## 今月の予定

8日(日) 成人式

14日(土) ふるさと発見団

21日(土) 藤山晃太郎新春公演  
(手妻師・文化会館)

## 今月の町民ギャラリー展示

大村朱澄選手 オリンピック 出場までの軌跡 1月11日～31日  
中川根中学校生徒の作品展 1月11日～31日

## 今月の文化会館ロビー展示

大村朱澄選手 オリンピック 出場までの軌跡 12月中旬～1月9日  
本川根中学校生徒の作品展

# 謹賀新年

本年も、ご愛顧いただきますようお願い申し上げます。平成24年は「1月6日(金)」から営業いたします。

春の展示会 2月17日(金)～19日(日)の3日間を予定しています。

農機具の購入・修理・改造など、お気軽にご相談ください。地域のお店だからこそ、ていねいに分かりやすく、迅速に対応いたします！

# 前田機材

川根本町上長尾795-1  
I P 電話 ☎050-3363-2252  
☎56-0006 ☎56-0009



「上長尾の一番だし」  
力を込めた暮れのもちつき風景

# 新年あけましておめでとうございます!!

昨年中は、当社をご愛顧いただきありがとうございました。本年も、より一層力を込めて、貢献いたします。

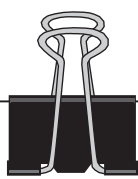
# 川根自動車株式会社

川根本町上長尾869-2 ☎0547 (56) 0150

# 生涯学習のひろば

教育委員会生涯学習課  
移動図書館やまびこ号 ☎(58)7080  
(59)3106





## 特定健康診査・後期高齢健康診査、がん検診最終日程のご案内です。未受診の人は忘れずに。

【問】生活健康課 ☎(56)2222

**日時** 1月18日(水) 文化会館 受付時間 午前8時30分～10時30分  
**会場** 1月19日(木) 山村開発センター 受付時間 午前8時30分～10時30分  
**持ち物** 保険証、各問診票、検体(尿や便潜血検査検体)

委託健診機関：JA静岡厚生連 静岡厚生病院

### 特定健康診査 40～74歳 後期高齢者健康診査 75歳以上

国保被保険者の40～74歳の人 後期高齢者医療保険被保険者の受診希望者で未受診者

**健診内容** 医師診察、身体計測、血圧測定、問診、(腹囲測定は特定健康診査のみ)、肝機能(GOT、GPT、γ-GTP)、脂質(中性脂肪、HDL-C、LDL-C)、糖尿(HbA1c、血糖)、蛋白尿  
 ※医師の指示により実施する検査(一部の人)：心電図・貧血・眼底検査  
 ※町独自で全員に実施する検査：尿酸値、クレアチニン値、貧血検査  
 ※自ら申し出ることによって受診できる検査：心電図検査

**自己負担** 40～69歳：1,000円、70～74歳：700円、75歳以上：500円  
 (自らの希望で心電図検査を受ける場合は200円の自己負担が必要です)

### ●同時受診できる健診および自己負担額

前立腺がん検診	40歳以上男性 自己負担：1,000円
肝炎ウイルス検診	① 本年度中に40、45、50、55、60、65、70歳に到達する人(通知済み)：無料 ② ①以外で今まで検査を受けたことがない人：500円
大腸がん検診	20～69歳：300円、70歳以上：100円 ※平成23年4月1日時点の満年齢が40、45、50、55、60歳の方は無料クーポン券を使用してください。
胃がん検診	35～69歳：1,500円、70歳以上：100円
骨粗鬆症検診(女性) (骨密度超音波)	本年度内に年齢が40、45、50、55、60、65歳に到達する人：300円 本年度内に年齢が70歳に到達する人：100円

※被用者保険の対象者は交付された受診券が利用可能な健診かを確認して受診してください。  
 ※胃がん検診(バリウム透視)、大腸がん検診(免疫学的便潜血反応検査2回法)、前立腺がん検診(PSA腫瘍マーカー検査)、肝炎ウイルス検診(B型・C型)、骨粗鬆症検診を新たに希望する人は、1月10日(木)までに生活健康課健康室☎(56)2222までお電話ください。

### 今月の納期

町民税 第4期分  
 国民健康保険税 第7期分  
 水道使用料 第5期分  
 後期高齢者医療保険料 第6期分

納期限は1月31日です。口座振替の方は1月31日に引き落とされます。残高の確認をお願いします。

税務課 ☎(56)2223

### 川根本町の人口

平成23年12月1日現在

世帯数	3,047 世帯 (-4) [42]	出生	2人 [0]
総人口	8,310人 (-16) [72]	死亡	11人 [0]
男性	4,069人 (-3) [19]	転入	8人 [0]
女性	4,241人 (-13) [53]	転出	15人 [3]

※( )内は前月比、[ ]内は外国人数、右欄は今月中の異動 ※外国人の数を含む

### 墓石・燈籠・各種石材加工

## 藤田石材店

川根本町上長尾861-35 ☎・FAX0547-56-1177  
<http://www.citydo.com/sp/0547-56-1177>

# くらしの情報ページ

■本庁代表 ☎(56)1111 ■総合支所代表 ☎(59)3111

商工会から珠算検定の合格者を紹介

### 真剣に弾くそろばんの音

都道府県商工会連合会および全国商工会連合会主催による第163回商工会珠算検定は11月20日、本町商工会2階で実施されました。

今回の試験は14人が受験。どの生徒も真剣な表情でそろばんを弾きました。試験の結果、7人の生徒が合格しました。

皆さんおめでとうございます。



#### ●合格者の紹介(敬称略)

- 2級合格▶西田明日香(中川根中2年)  
三倉 伶(中川根南部小6年)
- 3級合格▶勝山 響(中川根南部小6年)
- 4級合格▶風間 夏希(本川根小3年)
- 5級合格▶坂本亜由美(本川根小3年)  
▶小坂 麻嘉(中川根南部小5年)
- 6級合格▶中村 桃春(中央小4年)

商工会 ☎(56)0231

### 住民有志のまちづくりグループ「こんばんわ会」から 第4回 お稲荷さん「道しるべ灯」

千頭・小長井を中心としたまちづくりの会「こんばんわ会」では年末年始に、灯り作品100基を道路脇に並び、幻想的な夜を演出する「道しるべ灯」を開催します。

場所は千頭東区周辺から豊川稲荷千頭別院までの区間です。ほのかな灯りに照らされ、厳かな雰囲気を迎える年末年始。皆さん、ぜひご来場ください。

大晦日(12月31日)午後10時から、千頭別院前のおまやで、温かいお汁粉、おでん、もちなどを振る舞うサービスも予定しています。



12月25日(日)～  
1月3日(火)  
午後5時30分～9時

主催：こんばんわ会、協力：中部電力(株)大井川電力センター



地域コーディネーター  
松本美乃里の

## エコツアー日記

川根本町の魅力をPRする  
エコツーリズムネットワーク活動報告

問い合わせ まちづくり観光協会内 松本美乃里 ☎(59)2746

川根町エコツーリズムネットワークでは、4月から山や川を楽しむトレッキング、カヌー体験、ブルーベリー摘みや梅干作りなど、さまざまな種類のエコツアーを計22回開催してきました。その間、延べ240人以上の人たちにご参加いただき、リピーターになる人も徐々に増えてきています。

12月3日に開催した「羊毛で干支フェルト作り体験」は、今年の干支である「辰」を羊毛のフェルトで作ってみようというイベントでした。定員20人のところ、家族連れや友人同士など幅広い層から23人の参加者が集まりました。優しい羊毛の手触りに癒されながらフェルト作りを楽しめたという参加者の声が多く好評でした。

12月4日に開催した「モミの葉リース体験」には12人が参加し、アットホー

ムな雰囲気で開くことができました。講師の栗原春子さんの丁寧な指導によって、皆さんすてきなクリスマスリースが完成し、一足早いクリスマス気分を味わっている様子でした。

本年度も残すところ3カ月。3月には「川根町スイーツマップ」という情報紙を作る予定で取材を進めています。これまでの経験を生かしながら、より多くの人たちが本町を訪れ、リピーターになってもらえるよう、日々の仕事を大事にしながらPRに力を入れていきたいと思っています。

【川根町エコツアー日記】ブログでも、イベントPR、活動報告、本町に関する情報などを楽しい写真付きで発信しています。ぜひこちらもお覧いただき、皆さんもエコツアーイベントに興味を持っていただけたらうれしいです。



松本美乃里  
エコツーリズム推進事業の地域コーディネーター。本年度、エコツーリズム推進事業の一員として、まちづくり観光協会を拠点に活動中。富士市出身。

小売りいたします お気軽にどうぞ  
町内への配達もいたします

## 茶新坂本園

川根本町上岸110 ☎0547-59-2155

墓石・燈籠・各種石材加工

## 藤田石材店

川根本町上長尾861-35 ☎・FAX0547-56-1177  
<http://www.citydo.com/sp/0547-56-1177>

新年最初の号。皆さんに明るい話題を届けたいと思って「大村朱澄特集」に取り組んだ。今回、取材協力者の数は、町内外合わせて80人以上!!皆さんの温かい心が、朱澄さんに届けばいいと思う。

日本人が「日本人であることを実感する瞬間は?」と質問されると「オリンピックで日本人選手を応援するとき」と答える人がとても多いそうだ。自国の選手が挑戦する姿に親近感を覚え、「愛国心」に燃えるからこそ、気持ちを込めて応援したくなるのだろう。

川根本町が誕生して6年。これまでずっと、町の一体感を育てたいと考えながら広報紙作成に取り組んできた。しかしまだまだ消えない旧町意識。今もなお、「本川根」「中川根」という言葉が聞かれるのはさみしいことだ。

今こそ、この旧町時代のしがらみを越え、本町が一体となって、朱澄さんを応援しよう。朱澄さんが私たちに与えてくれたものは、「喜び」や「元気」だけではない。何より「一つの町として歩いていく」ための大きなチャンスをくれたんだと思う。ロンドンまで行って旗を振ってもいい。テレビの前で声を張り上げてもいい。軒下にちょうちんを飾ってもいい。後援会に入って朱澄さんをバックアップしてもいい。実際にカヌーに乗って、その魅力を実感してみるのもいいだろう。

「絆」という言葉がクローズアップされた年。川根本町の名を背負って挑む朱澄さんを、川根本町の「絆」でもり立て、後押ししよう。それが朱澄さんにとって、何より大きな励みになるはずだ。

朱澄さんがオリンピック出場を決めた年に、広報担当でいさせてもらったこと。本当に幸せなことだと感じている。 小笠原聡

after word

1歳になったばかりのお友達を紹介  
生まれてくれてありがとう



中村樹月くん  
H 22・12・13 生 地名

父：哲也・母：千鶴華  
いたずら好きで、やんちゃな樹月。上手に歩けるようになって、目が離せなくてなかなか大変だけど、その成長がとてもうれしいです。時々お姉ちゃんとけんかするけど、仲良く元気に育ってね。



湯口蒼祐くん  
H 22・12・22 生 地名

父：博樹・母：悠子  
蒼祐くん、1歳のお誕生日おめでとう。毎日キミの笑顔に癒されています。元気でたくましく育ってね。これからの成長が楽しみです。

みんなの笑顔が、まちを元気にするよ😊

Birthday

出生・婚姻・おくやみ  
戸籍の窓辺

お誕生おめでとう★	おくやみ申し上げます◆
地区 久野郷	地区 大谷
氏名 佐藤 優太	氏名 西村 芳雄
性別 男	享年 90
保護者 清雅 千里	届出人 昌治 幸雄
地区 高野	地区 大谷
氏名 中村 優太	氏名 西村 芳雄
性別 男	享年 90
保護者 清雅 千里	届出人 昌治 幸雄
地区 久野郷	地区 大谷
氏名 佐藤 優太	氏名 西村 芳雄
性別 男	享年 90
保護者 清雅 千里	届出人 昌治 幸雄
地区 久野郷	地区 大谷
氏名 佐藤 優太	氏名 西村 芳雄
性別 男	享年 90
保護者 清雅 千里	届出人 昌治 幸雄

family registration

眼科患者さん無料送迎いたします。

ご近所から、当院まで送迎車にて無料送迎いたします。  
ご予約は電話にてお願いします。  
(当院に初めて受診される方もご利用いただけます)

島田眼科クリニック

住所：島田市日之出町3-9  
島田駅から徒歩1分  
☎0547-37-0431  
診療時間：午前9時～12時、午後2時～6時  
(休診日：水曜日、日曜日、祝日)

川根高等学校の「今」を紹介する  
学校レポーターズコラム

最高の演奏を創り上げることができた総合文化祭

川根高等学校郷土芸能部部长 濱谷 豪さん



私たち郷土芸能部は、現在2年生8人、1年生12人の計20人で活動しています。地元での伝統芸能である「赤石太鼓」の練習と演奏が主な活動です。平日の夕方は、学校で太鼓の練習、休日は地域の祭りやイベントなどで演奏しています。郷土芸能部の部員は、高校に入ってから初めて太鼓を叩く者がほとんど。分からないことも多く、大変な時もあります。しかしそんな時は部員全員で協力し、地元の赤石太鼓保存会のメンバーにも支えられ、毎日楽しく活動しています。そんな私たちにとって、一年で最も大きな大会である「静岡県高等学校総合文化祭」が11月20日、島田市川根町チャリム21で開催されました。

私たちの目標は、この大会で優勝し「全国大会」に進むこと。今年は地元開催ということもあり、例年以上に気を引き締めて大会にぞみましました。本大会の上位2チームが全国に進めます。私たちは精いっぱい演奏しましたが、残念ながら4位という結果に終わり、全国大会出場はかないませんでした。しかし、悔いは残っていません。部員全員が持てる力をすべて出し切り、全員で最高の演奏を創り上げることができました。そして、結果には出まらなかったが、演奏が終ったあと、応援に来てくれた大勢の人たちに「感動した」「かっこよかったよ」と声をかけてもらったのです。

もちろん優勝できなかったことはとても残念なことですが、自分たちの演奏が感動を生んだということが、何よりうれしいことでした。私たちの活動は多くの人に支えられることで成り立っています。太鼓の練習に存分に打ち込めるよう、支援してく



自分たちの演奏が感動を生んだということが、何よりうれしかったと話す濱谷さん

column

総合型地域スポーツクラブ「かわねライフスポーツクラブ」設立プレ大会 1/29日 午前10時～午後2時

総合型地域スポーツクラブとは、皆さんが「生き生きと楽しく暮らす」ことを目的とした生涯スポーツと地域コミュニティのクラブ。レクリエーションやスポーツなどを通して、川根本町に「健康で元気な人」を増やします。1月29日に設立プレ大会を開きます。当日はヨガ、スポーツ吹き矢、バスケ、フットサルなどを体験でき、同時に入会申し込みも受け付けます。お楽しみ飲食コーナーも設けますので、どなたでも気軽に、お誘い合わせの上、ご来場ください。みんな一緒に楽しいスポーツを満喫しましょう!  
【問】かわねライフ事務局 ☎(56)1617



活動の一つ「フットサル」

ここにも、一つの物語。  
広報かわねほんちよう

# カントリーロード

緑のふるさと協力隊員 神東美希の奮闘記

7

日本の冬に欠かせないコタツ。あまりに暖かいので、ついつい出るのおおっくうになり、怠け者度がさらに増しています。実家なら母親が「はよお、お風呂入り！」だの「そんなとこで寝られん(寝てはダメ)！」と叱ってくれるのですが、一人暮らしだとやりたい放題。不摂生な生活がたたってか、風邪

があります。それは「本町の人こそがこの町を知らない」ということです。自分の住んでいる地区のことは熟知していても、町内のほかの地区のことは意外と知らないんじゃないでしょうか。ことあるごとに「本川根、中川根」という表現を耳にしますが、「川根本町」になって6年が経つというのに、まだ別々の町のような、他人行儀な言い方をしているのも気にかかります。

ありがたいことに、私は「緑のふるさと協力隊」という立場を生かして町内のさまざまな場所で活動させてもらっています。おかげで町内のほとんどの地区に知り合いができたし、貴重な体験もたくさんさせてもらいました。この町をどんな好きになりました。それは本当に感謝しているのですが、私は本町の皆さん一人一人こそが「川根本町のふるさと協力隊」になっ

てほしいと願っています。週末には島田や静岡に出かけるのではなく、本町で開かれるイベントに参加したり、行ったことのない地区に出かけてみたりしてはどうでしょう。本町の良さを外に

## A Country Road

発信することも大事ですが、まずは住んでいる人が自分の町を知って好きにならないことには始まりません。「しょんないよ」だの「かいだるい」だのと言わないで、新たな視点で古里「川根本町」を見つめ直してみませんか。生意気なことを書きました。でも、本川根でも中川根でもない、ヨソ者の私だから見えること、言えることがあるんじゃないかと感じています。ヨソ者ではありませんが、今は私も川根本町民。良いことも悪いこともひっくるめてこの町が好きだから、「もつとこの町を良くしたい、もつと知りたい！」と思っています。

「ヒトの魅力@かわねほんちょう」のインタビューでは、前向きに頑張っている魅力的な人に出会います。そういう人たちとの出会いから、たくさんのパワーをもらっています。2012年は私が皆さんにパワーを与えられるように…。とりあえず、不摂生な生活を直すことから始めなきゃなあと思っているところです。

こんな私ですが、2012年もどうぞよろしくお願いします！



連載も7回目を迎え、私の認知度も急上昇。11月号で「お鍋のお誘い待ってます」と書いたところ、さっそく数件の反応がありました。いや～書いてみるもんですね(笑)でもまだまだ協力隊の存在を知らない人も多いようです。本町に来て9カ月、同じ徳山の人でさえ私のことを知らなかったのはさすがにショックでした。「認知度が上がってきた」と調子にのっている場合ではありません。

神東美希(かんとみき) 愛媛県伊予市出身 緑のふるさと協力隊員第18期生  
緑のふるさと協力隊は、特定非営利活動法人地球緑化センターが推進する事業。  
農山村に興味を持つ若者を、地方自治体に一年間派遣。隊員として、農業や観光施設などで協力活動をする。美希さんは、本町5代目の隊員。  
ブログ「徒然かつこin川根本町」執筆中! <http://katsuko-toppa-rohey.seesaa.net/>

